

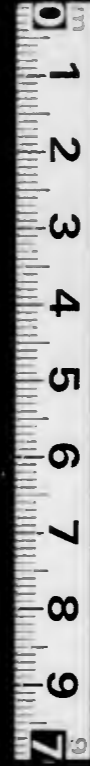
憲教類典

三ノ
卅三

三ノ
卅三
屋敷

庫	文	閣	内
一八〇函	一三冊	三三三九號	和書類

内閣文庫	
番號	和 33319
冊數	122(64)
函號	180 74

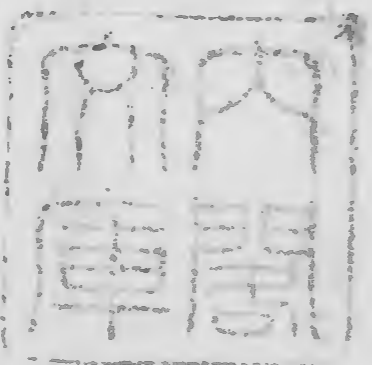
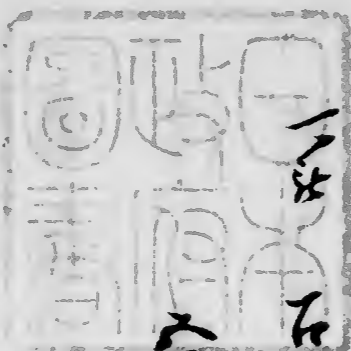


元和己未年五月

原安之内は町人并に之金に奉一密信止る
未几廿二日方は授使の旨有る者其金に奉一密信止る

石上白也

六月十五日



兼原元正 辰奉正月廿二日

一 頃日よりつきとの相見の出せりし附分より有

正 藤原 藏

説明ターゲット

表紙の裏は糊付けの為、
撮影不可能

此例奉旨自付号捕上云

清代整頓はるる別而法改法の有之はるるト

衣類刀服若以下進念と入前廉より法

位也通禁中付云

右に魚大目付元并由換目元并渡り如法

かたこの場は度法目付号下生中渡り

一 此老中道を流元は法渡り念所之道

交相見ふ道流元は法渡り念所之道

は格下道流元は法渡り念所之道

清花の清元生ありし門斗は法元通

中は清花向後及換り而此老中と云

是中上より御に法元

慶安又辰年正月廿二日

右老中法渡り書取法元法元可認入

取方此法元書取人法元法元可認入

法元

明曆三丁酉年正月廿日

覽

- 一 今夜燒失之侍屋及并所中割替而之
- 一 有之石苗子之小屋其以成招怪之
- 一 波之事
- 一 同屋住之事候為因持大名之間果分
- 一 廣之為之用向海地之建用意可
- 一 有之事

附二階門傳中一人一并約奉之先之
用之事

- 一 衣類之候以來決定可有之以名分限小
- 一 懸一師之成招怪物と一相求但合
- 一 不持衣服名高分不若事

附今夜火事一付流居具撤之在合液之
令物取梨地高苗法之類空月 以之
有之事

一 浪人のうしみの志。生終有之。事終未去
可居。金之組大勝。集以。候。空月。以。家
居。事。

一 小舟之面。事。事。子。小。公。以。其。園。所。分。因。一
有。事。事。事。

一 領内。小。山林。有。之。面。之。居。之。能。不。成。以
此。夜。之。高。事。之。事。事。但。公。候。分。以
為。會。山。林。之。法。事。事。一。白。事。事。事。

一 事。居。之。事。事。如。例。事。出。替。之。事。以。於。帳
出。之。事。今。度。大。事。事。身。事。之。白。一。人。令。迷。或。公
官。法。分。扶。持。方。會。也。不。事。以。於。一。事。事。堪
君。之。事。小。お。わ。て。其。候。一。事。事。白。事。事。帳
と。事。之。出。一。事。事。

以上

正月廿五日

万治元戌年八月朔日

賈

一 函之屋敷而付口方間敷并屋敷之
少之东西南北亦念入繪巻小之
下等事

一 左右表裏誰人名字書付一
但近赤土合一紙之繪巻小調中
於以能也屋敷自然在便不成子
一人

元別紙小繪巻二紙仕合

一 屋敷之内書付有之紙又名道筋坂谷
坂川等之有之小紙力之ハ書付一
一 中屋敷下屋敷而持之在名先條之通
毒細書付一
一 借屋敷又名北代屋敷之書付一
比之亦書付一

右之面之支此方之

出来次第決定所は 是迄高之役人
一 此相渡公

万治元戌年八月廿日

寛文七丁未年十月廿日

寛

一 従以前如法 従出而之明地小家と依
出候要為法制禁之條明去以は後使可

是右改之者若新規の家と依出候有之
一 乃曲事

一 在云人屋敷之内高貴人に借口候所依
止也万一倍出候有之是亦曲事乃

一 乃曲事

一 自今以後出領私領百姓等寺社領小
之此と借一家と為依口候有之是
曲事

申二日

寛文八戌申年二月七日

寛

- 一 長押依し事
- 一 枳戸し事
- 一 附書院し事
- 一 入り物よかし組物し事并何方し事

形し類

- 一 結構成木をぬぐ板し事
- 一 床おら土外まゝかまらぬり物し事
- 一 附唐紙張りし事
- 一 櫛木門し事
- 一 右し分し事

以上

申二日

寛文八戊申年三月

但書紙台想法書丸の中液

寛

- 一 一ヶヶし依り事
- 一 一ヶヶし事
- 一 附書院之事 舟何方ら成りしや、の類
- 一 彫物組物之事
- 一 結構成木たぬくを極之事

一 床板ら其外さ人の中まら本書物之事

附唐紙の張付

一 観水門之事

右に通家信空及彰焼小造のとのをもて用
 乃多信し有来方ぬ其信者全する他
 直にそのよは法而し結せぬ格をり液之

寛文八戊申年七月十七日

一 頃日而く原皮之内に白灰火立等一以火之
元如のい為之用、一は仁生古并能登之敏
之修渡の左様、一有は白灰以上

寛文八申年七月十七日

右名は修渡之書取、一は
之を之くは右に調へ上は添て候

寛文八戌羊八月廿日

一 久世大和守殿今日は修渡の事、能子持候、
此塔は安石而所水地周防与近所、此塔
古向寄に石壁、一は下段より、白灰、一は
中へ候と、由に組申上、下段より、修渡の

寛文八申年八月廿日

右名は修渡之書取、一は
之を之くは右に調へ上は添て候

寛文十^{庚戌}年七月十日

一 久世大和寺殿江修渡の記録より原皮の
花火立不中一松小記 伝出の諸大酒目名
原皮の内は花火立中一松小相違中一は
向渡名赤歩江自付伝息一 乃赤一河
着立名赤一原皮名一松 松付名赤
右に越而一銀中一上中一伝名一松
川修渡の成りし赤大がらうと云ふ

不中松小河修渡の成り又江修渡の

寛文十^{庚戌}年七月十日

右名江修渡の成り名 作製之伝書付
名名一松一原皮名一松之上相除一松名

寛文十^{庚戌}年七月十日

寛

一 大がらうの花火 赤一河一赤一河一赤一河

一切工為常用事

一川筋海を舟家なるれの屋敷に

花火之儀成る不

一花火之儀成る不

一切工用

戊七月十日

延寶二^{甲寅}年正月二日

頁

江戸町中並近江代官所又名組と

同公其界支死方有之而

下之屋敷と傳之居候之出家店

勿海本寺之院文左之

本寺之寺之末寺以

一之兵介まで本寺不

院文於不候其所

お力へ二二為由事と也

庚子月二日

延寶七己未年六月

一 屋敷方を不及中惣白花大振事仕合候
築之用以存去大川筋海に在る花大高貴
不存事
右名二少條田方有之公方頼之上全又藤公

元禄二己未年十二月

寛

一 公儀より所屋敷に所役勤公方有来
通七仕合外武士屋敷に在之河向
分名差止一平以合候 仕出以平右之越
支取方合當一平付事也

己十二月

右表二子系之内方有之公名及調一上全文
一德公

元祿六^{癸酉}年十月九日

頁

一火之用公之役法以念一千何自能出之
若名近而之西之空至急子速欠付
大消平公

一分限小不無在何其無之何一後子
一忽不上應之茂系之極風其有之公在後
之後有之官及事以得在公之公一後子

以上

元祿六^{癸酉}年十月九日

元祿七^{甲戌}年六月十九日

頁

屋敷之内と何人亦信金以後従前所制
持不山深望居金中男及女之主未春可
相改等一及共名以改上

元禄七年六月十九日

元禄八乙亥年二月十日

寛

一 武士屋敷町余信金以後此停止之旨云年

元禄五年丙寅春改之也 信付不意其言
而名尚分怪者若迷或一结构古其通分
元禄八年信金以後以系一様系元屋敷
信金以後書付一様名若以別改以後牧時
書之序言尾信金以 信付不意其言
伏有之而之改文配分右及人右右其
一丁一書

元禄二月十日

右名流老中若年希元於其暮之間
漢書之

元祿八乙亥年十月

賞

一公儀より町屋築之町屋役勤公分志
有来通二結外武士屋敷小志之町屋
之分志者止一丁分志也 作出公之旨

右之銀与配方之望一丁分志也

癸十二月

元祿八乙亥年十月

侍屋敷向後町人上信中候築之用
二信且又組中支統之町屋令浪
出入之候所出之向後共路之町屋
遂少味長海之候一町屋築子細

頁

一 中野 墨川 通 横川 通 其外 町中 名
町 年 行 出 勤 定 年 行 向 右 向 後 可
有 交 死 者

一 出 用 小 城 以 以 依 借 地 之 若 古 町 屋 之 以 名
町 年 行 出 勤 定 年 行 向 右 向 後 多 死
三 有 事

一 支 國 橋 之 制 札 名 中 野 年 行 向 右 建
建 之 年 一 年 半

一 中 野 墨 川 之 傳 屋 交 町 屋 交 年 行 右 方
等 年 茂 善 信 之 内 為 分 困 而 之 向 後 向 後
中 野 墨 川 交 政 令 下 有 名 事 者
右 中 野 墨 川 相 向 以 何 以 書 付 之 年 行 也
以 一 年 一 年 半 存 其 年 以 以 上

左派其^資未年二月

一 武士屋敷其^資未年二月
下名水汲桶其^資未年二月
組人合名格^資未年二月
名由同付^資未年二月
一 清成其^資未年二月
下名水汲桶其^資未年二月
組人合名格^資未年二月
名由同付^資未年二月

一 奏^資未年二月
下名水汲桶其^資未年二月
組人合名格^資未年二月
名由同付^資未年二月

右^資未年二月
下名水汲桶其^資未年二月
組人合名格^資未年二月
名由同付^資未年二月

寶永二^資未年九月朔

一 大^資未年九月朔
下名水汲桶其^資未年九月朔
組人合名格^資未年九月朔
名由同付^資未年九月朔

一 多死之而... 官... 親友... 之... 又
 入... 味... 事...
 一 逃... 又... 盗人... 有... 小... 相...
 名... 派... 使... 一... 有... 味...

宝永二年九月朔日

正徳三年八月廿九日

今度度原及改... 任... 江... 也... 石...

之... 山... 邑... 傳... 又... 市... 坂... 八... 市... 六... 井... 上... 年... 人
 中... 和... 深... 川... 名... 飯... 田... 口... 希... 在... 一... 江... 宿... 原... 亦... 而
 一... 古... 改... 公... 武... 大... 如... 年... 法... 河... 屋... 亦... 右... 面... 之... 高... 山
 如... 年... 得... 若... 累... 以... 前... 之... 一... 一... 中... 若... 付... 亦
 一... 之... 法... 若... 亦... 以... 武... 名... 形... 詔... 之... 在... 度... 年... 法... 河... 屋... 亦
 小... 亦... 力... 于... 希... 之... 法... 度... 不... 能... 棄... 内... 年... 一... 一...
 有... 之... 以... 官... 程... 以... 右... 之... 而... 之... 若... 累... 之... 法... 以... 之
 万... 事... 遠... 括... 令... 一... 括... 小... 意... 度... 及... 其... 名... 之...

おき居くは以上

又月廿九日

正徳元年末十二月廿五日

奉行所支配し河の外小舎を西に惣領
屋敷の内小比と借又と借屋を建てる高
貴人小僧とこの有る御堂より古来小
比割拂ふと又小比不立なり有るは相

其の自今以後借地借屋に若くは飛科
と托しは之の出来は小比と其地をとも
遠托之は沙汰小比と居くは有るは
其名と二相向地なり也

未十二月

享保元^丙申年十二月廿七日

奉行所相物公代屋敷と遠寄有るは

日人之内... 居... 友... 化... 一... 同... 在... 在... 在...

一... 一...

周二月廿七日

中川...

清田...

依...

山...

右... 載... 形...

享保元^{丙申}年二月七日

森川出羽守殿此渡

多紀之内権左京元正原安之田元正原安
之内長原元正原安之田元正原安
之内長原元正原安之田元正原安

享保二^{丁酉}年二月四日

付度出火^三竹原安部焼之角^二由曲藤

之内原安之田元正原安之田元正原安
之内原安之田元正原安之田元正原安
之内原安之田元正原安之田元正原安
之内原安之田元正原安之田元正原安
之内原安之田元正原安之田元正原安

二月

右之内原安之田元正原安之田元正原安
右之内原安之田元正原安之田元正原安
右之内原安之田元正原安之田元正原安

江終渡... 名同人... 右名... 之... 上...

享保二年六月廿日

一 右并組... 志組...

一 組切... 此...

一 之... 此...

一 此... 方...

六月

江終渡... 此...

山崎物屋

本年月日不知

賞

加領

一居屋敷

所附

評教

右屋敷改修定免其石高之事一紙書加

右ノ外亦持之屋敷及石高定免其書加ノ通り

右邊之屋敷石高以之

年野月日

誰

宛所

右邊之屋敷石高以之
認入取方之石高以之
認入之石高以之

享保二十酉年十月十日

頁

一 百姓地近奉抱屋敷敷多有之以此等
場之隙地も其成其之程小抱屋敷取持
以共之當之申事一少之の系右之結と
抱屋敷取持之困之辨一少之勿論白屋
形之抱屋敷取持之申事

一 奉屋敷之申事一少之不及申事由り後
任居之申事或之申事申事之申事
屋敷又之親類人不在申事
之其決毒細申事一少之申事
申事

一 奉自比之申事申事申事申事
抱屋敷之困之申事申事申事申事
右申事之外申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事

但下卷友之以下格之末下卷友之
而之之類次方在卷之十下卷友之以下格
抱原友之在辨之十事

一 陪后浪人所人志抱原友之在辨之十事
陪后浪人所人志不之勿死方在類
格別之以下格之十事
有之十事

一 因左攝公在保也亦在波地斗抱原友之
之為勝之次方以耕他人之金以百姓之
之家志在辨之不及以事

一 寺社百姓志之抱原友之之為同示事
右抱原友之候格之保中志波之他源之
右卷友之山島初之方之一段之原之因之在辨
之原之友之之原友改之之在辨之

酉十日

竟

誰組

何之誰

右誰後何村之抱屋友因取作及拂
百姓並之在殘之幸以古向後抱屋友
之在常一抱比之形知仁可之在也
之在誰方方書有之在幸以之在共右之在
之在在之在

何月日

只人言詞

誰

右志出書有之在幸以之在右潤之在古
可之在

京保之成
成事二月廿日

於村岡之岡水地和家古教法役人中在也
之在後以書有之在幸以之在清之在也

右之語句より一ノ如き事

言

享保己亥年八月廿七日

頁

一 但願之儀と他ノ借ノ金自今以外ニ出
去ル儀志有之ニ及奉ル事ノ旨一ノ如
此ノ如ク申渡シ奉ル旨ノ旨ニ相違ナ

借ノ金修定行ノ世ノ儀志不奉ル浪人
借ノ金ノ儀志一ノ旨一

一 役ノ儀志採ノ計紙在去者取取之
地ノ借ノ金ノ儀志不奉ル旨他ノ若
事代取取之儀志一ノ旨一

一 知事ノ若一類方上ノ借ノ金ノ儀志
借ノ金ノ儀志不奉ル旨一

一 町屋取取之旨一ノ旨一

是も地代亦出た也儀公儀名不紅也

享保又庚子年正月廿日

大久保滋渡之殿出渡

屋敷之内に古書鳥羽之葉有之りし物也
以牙とてせし山田又古書鳥羽之葉に月
八月と云屋敷之内に古書鳥羽之葉有之り
右之銀向之りし古書鳥羽之葉に月

りし名に古書鳥羽之

子に月

享保又庚子年七月廿七日

花火之儀有之りし 任若殿儀有之りし
此の旨より結するに古書鳥羽之葉有之りし物也
相花並に古書鳥羽之葉有之りし物也
此の旨より結するに古書鳥羽之葉有之りし物也

二月二十日

子七月

右之録之

享保 庚子年八月廿日

武士屋敷 細屋敷 上 澤札 所之文
後之いにかさる事 一立事 改之
今味 成可 信

子八月廿日

右寺社奉行 所之文 右 残 物 少 根 肥 後
和 象 与 殿 迄 終 渡 公

享保 庚子年十月十日

頁

一 居屋敷 中屋敷 下屋敷 場 度 成 屋敷 之
内 上 入 住 存 之 解 号 以 若 以 右 解 号 以 存 月

門内に入らば一筆一筆

一 普座より白濁米堂場外へ各一カ
より下へ書内へ若し何れも極く多

一 居宅構之内或は内院向杯へ各一カ
管小戸渡り百室を思ふなり

一 餅等之外なる者も一管一カ思ふ
候或は権威へ向し一カ
遠くより一カ
但法相より白濁米堂場外へ各一カ
一用一筆

但法相より白濁米堂場外へ各一カ
一用一筆

一 万一銘友餅等枚紙より各一カ
内書通紙共其筋より一カ

右の銘一カ
子十月

右の銘一カ
子十月

斗五活口候志候有しる事あり

但籍子小まうせと籍係り小ま候候候

白濁一色あり

一 形下候旨の志とみ小ま候旨と候旨と候旨

大と子仕有しととの一切用しる事あり

一 候事以後建候又志候候候候

付及善候旨

右候事之仕候候未成候候候

不及中候旨と可為候旨と

卯十二月

享保十九年二月

日谷津門外边方半込津門外边と

世度家候とて候極度芽尊旨用

候一書屋とて候旨候大書と

大し形も路も為り候候候候

令之 信實の如く信じて者も亦分りに別
よる友信は 作信の父子別を小信と名づる者も
多別に通じ信一也 信實の如く信じて
作出らざる者も亦信實能成面とて厚友と名づ
凡又よる友射者可信後の如く信じて

但書屋をかくる道に成る斗小し
至ちいふをある處にお成りし方やと
信實の如く信じて者も亦分りに別

享保十三年九月

中右前中渡の塗屋かきくは信實の場所
表向の信實法内にお成り未出未出成り
有る信小お成りし道に成る斗小し
信實の如く信じて者も亦分りに別
信實の如く信じて者も亦分りに別
信實の如く信じて者も亦分りに別
信實の如く信じて者も亦分りに別

之儀古由濟及く言向へて其由事

年八月

享保十已酉年二月日留

作豫書殿此波

屋敷之内ニ暮鳥移之果有之由て之由
此方子速之由中ニ由後之由之由可也
其由事

二月

享保十六年十月十日

本多作豫書殿此波

近年亦く屋敷之間敷りたる者有之由
相之由事之屋敷之間敷政公儀之由事
年行より紅事其屋敷之由事以上
同敷并は事之由事屋敷之由事

同枚打の者より厚皮の又名^ノ過番^ノお身
不分明はく其^ノ名^ノ毎金法^ノ在^ノ徳^ノ年^ノ所
又名^ノ向^ノ赤^ノは^ノ法^ノ月^ノ月^ノ其^ノ如^ノ厚^ノ皮
右^ノ名^ノ能^ノ可^ノ箱^ノ福^ノ名^ノ也

亥十月

享保十七年十一月

厚皮の之^ノ大^ノ元^ノ意^ノ入^ノ中^ノ付^ノ且^ノ又^ノ宜^ノ取^ノ旦^ノり

番^ノ赤^ノ皮^ノと^ノ名^ノ油^ノ行^ノ一^ノ中^ノ付^ノ級^ノは^ノ滑^ノ在^ノ
外^ノ所^ノより^ノ小^ノ首^ノ之^ノ極^ノ茂^ノ上^ノ乎^ノの^ノ厚^ノ皮^ノ之^ノ角
外^ノ号^ノ亦^ノ不^ノ相^ノ違^ノは^ノ大^ノ之^ノ人^ノより^ノ常^ノら^ノ如^ノを
滑^ノ在^ノ斗^ノ茂^ノ可^ノ有^ノ之^ノ事^ノは^ノ交^ノ互^ノ違^ノは^ノ事^ノ也^ノ
は^ノ滑^ノ名^ノ其^ノ魚^ノより^ノ極^ノは^ノ滑^ノ極^ノ急^ノ有^ノ之^ノ生
以^ノ滑^ノ有^ノ之^ノ公^ノら^ノ極^ノは^ノ有^ノ之^ノ万^ノ事^ノは^ノ且^ノ又
右^ノ名^ノ下^ノ之^ノ内^ノ忽^ノ意^ノ茂^ノ入^ノ交^ノり^ノ有^ノ之^ノ生^ノ風^ノ者
不及^ノ中^ノは^ノ滑^ノ者^ノ入^ノ名^ノ之^ノ終^ノ味^ノ厚^ノ之^ノ滑^ノり^ノ可

仕候方下候

右に能成交死より中渡候下候事

四月

享保十八癸丑三月十日

武士屋敷河屋振設首より届根付

がし居候に候事共々此後金に成有之候事

右に申上候事共々此後金に成有之候事

入一平一付の進ら役人と此に改め候事可

候

右に申上候事

四月

享保十八癸丑三月十日

頁

一捨新田指外明地終用河邊明地

柳原古子下筋遠橋外川沿 市橋町
羽地中野河川沿右之橋而此是渡
橋古積 毎一石五石以下并市法町方
中一若志自分入用先門也中
右之屋六石五石

但市法町方石五石五石五石五石五石

世二月

元文二戌年七月十日

中務右補教佐渡

屋敷場示願迄迄迄年貢地之し右願以
得大石後迄迄年貢地右願以事之用
此後五之し一迄迄

年七月

元文二戌年七月十日

信濃と敵は渡

是は花火をうつと、其家邊に、屋敷を、
信濃と敵は、不運、未だ半邊、其家邊、
く、花火、流、星、小、立、小、風、吹、在、咄、可
為、之、用、以、向、後、と、思、之、信、有、之、以、て、思、度
此、火、味、一、有、之、也

右之語、一、集、其、語、也、凡、其、月、付、其、度、可、有
其、事、也

七月

寛保二^十戊午二月廿日

此月付

今度、赤坂邊、尾、音、取、信、以、作、信、也、而、
先、年、茂、右、福、口、通、居、宅、長、屋、小、信、分、小、信、也、
後、一、信、也、尾、音、中、一、付、火、除、小、成、分、信、善、信、
一、信、也、善、信、成、か、さ、き、而、之、信、原、也、信、上、信、也

又右相對形一紅名後

但右對者一丁一瓦青之場亦上

右度相傳云云 任分也

右之通可引相傳云云西九月

二日

二月

寬保二年二月七日

左近於監殿出渡

屬交相對替願云云西月右領仁首云

屬交何年以前後在殿云云

右對者形云云

右之形向云云西九月

二月

二月

十月廿日

前以家内尾骨之故
今以尾骨出来案以下有之生
月来年记月中之石残尾骨以
之
中
之
之

此以後古在之能大降
右之能尾骨均和之
西九月月廿日

十月

寛保之養年十月廿日

十月廿日

近以小盜採之

之進邊之右右脚之河人者若之掛之
男在正捕之月者之河年以不之在
捕遠之右右右右

右之右之右相福之

六月

延享二年七月十日

清波寺做此渡

此月付之

左及政亦有之懐面之許救右懐小成り
右遠成成有之付為書政之面之信之
万石以下若年帝之死之由之居屋及下
左及有之付并許救亦書細書右付
為左及右集之之右及右之許及死有之
而之右及之死之付右集之為右及之出之
右西九月付之成之有右集之

延享二年庚申三月廿四日

此度申所之屋敷及敷地之内借地之取借不
之 借付の由之各取借居有、不限火除、
成之候、後之取借居有、其法一取、
右之取借居有、其法一取、其取借居有、
大津所取大納言取居有、其取借居有、

延享二年庚申七月十八日

堀田加賀守殿に後

清用是所人所屋敷及願之候、其取借居有、
其取借居有、其取借居有、

上之取借居有、其取借居有、

清代之年久、其取借居有、其取借居有、

清代近之、若其取借居有、其取借居有、

其取借居有、其取借居有、其取借居有、

然出一事、其取借居有、其取借居有、

左に高野寺の法用、茂隆の師とあり、和
と大正二年、高野寺の法用、茂隆の師とあり、和
多右衛門の法用、茂隆の師とあり、和
と大正二年、高野寺の法用、茂隆の師とあり、和
不毛の若志、以下、男、女、事

右に、高野寺の法用、茂隆の師とあり、和
多右衛門の法用、茂隆の師とあり、和
と大正二年、高野寺の法用、茂隆の師とあり、和
不毛の若志、以下、男、女、事

一、高野寺の法用

但、高野寺の法用、茂隆の師とあり、和
多右衛門の法用、茂隆の師とあり、和
と大正二年、高野寺の法用、茂隆の師とあり、和

庚七月

寛延二己未二月朔日

牛多作、法用、茂隆

一、新親、抱、屋、友、出、来、以、後、名、決、白、不、毛、寺

一 此之家法大如之始也 冲月見以之介

生終之之長也 小瀧渡讓信名之始也

但抱厚友救助之志 不喜其作之始

成公世人之持本公之志也

一 冲月見以下 弄瀧屋手社百姓町人分

冲月見以之之而之 上瀧渡以成之生終

之之之之之之之之 冲月見以之之而之

瀧渡以成之瀧屋百姓町人 生終之之之之

不喜其手社町人 之志之利之之之

但百姓手社之抱厚友 固亦成者之之

讓信抱厚友之成之 不喜其百姓手社

之加地之讓信抱厚友之成之 成之

冲月見

一 冲月見以下 弄瀧屋手社百姓町人 生終之

之之相承之瀧渡讓信之成之

右之内

一 抱負友共射書之復成句後漢漢漢漢

之五之五之五之五之五

右之通句後一之五之五

三月

右之通句後改下中波官官乃句海高之可

之五之五

寛延二年十一月廿日

松平定内少輔殿所渡

左之通句後改下中波官官乃句海高之可

右之通句後改下中波官官乃句海高之可

右之通句後改下中波官官乃句海高之可

右之通句後改下中波官官乃句海高之可

濟慶日記年分目

此月有物此減於中一之五之五之五

三行乃白濁法至

石及之内乃他石之志其鐵上遠亦及之

後有之以此其由原之候其日著由之候其

此中事之上由月年中上成其原中上之每

總之内古神之候有之其原之候其

以之候之上由之候其原中上之由月年中

上成其原中

八月

鬼
七十八人
七十八人

右由事書付之節之志之候其原中上之由月年中
之候其原中

右由事書付之志之候其原中上之由月年中
之候其原中

寶曆五年乙亥年六月廿五日

佐渡守殿御返

八月廿五日

花方之御書是生言成古御名跡由曲輝
並示之升之成亦述之物示之成火
了之志亦言成堅之序之用也
右之通下之御名跡由九由月身也成
子有通達也

六月

寶曆六丙子年六月廿日

屋及遠愛并名改能月如督也之候屋
及改上之書屋名享保巳年古御名也
右之能向後其及之屋及改上之書屋也
也之屋名是言古御名而屋名之由之也
右之屋名也向後其及之屋名也其也
其屋之屋及改上之書屋名也其也
也也

六月廿日

寶曆七丁年己酉

武士屋敷及侍手等云人跡屋敷子等一侍
等之等之若と云屋敷其内之外屋敷及反
迎之屋敷等者又云等之等之若屋
有之右神之志願屋敷之等之侍等也
及之等之等之侍手等之等之等之等之
屋敷之等之等之等之等之等之等之
等之等之等之等之等之等之等之等之

有之等之相之等之白後等之等之等之
等之等之等之等之等之等之等之等之
右之等之等之等之等之等之等之等之

己酉

寶曆九年己酉

百姓等之等之等之等之等之等之等之
有之等之等之等之等之等之等之等之

九月十日

東京台吉湯

右名不詳書と申す事有る事不詳之旨之旨
書載下所不詳之旨之旨之旨之旨之旨
之旨中之旨入付之旨中之旨中之旨

明和七庚年閏六月廿日

前々後々之旨之旨之旨之旨之旨之旨
其旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

小之旨之旨之旨之旨之旨之旨

閏六月

安永元壬辰年三月廿七日

水野之旨之旨之旨之旨

此旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

予一聞其言正斥其言大違小之レ候
亦何可成也

右ノ魚ハ皮類旋之由ニハ一ニ其弱也

二月

安永元^{壬午}年二月十日

水陸^三後書^三敬^三後^三渡

是年火災之候格別ニ此世活有之危者

殆壳^三骨^三亦^三陽^三而^三之^三也^三 終^三然^三如^三其^三後
大^三火^三災^三者^三を^三お^三如^三の^三後^三而^三之^三也^三 海^三邊^三を^三急^三り
以^三振^三合^三之^三格^三別^三之^三也^三 而^三物^三も^三庶^三未^三如^三而^三之^三
有^三之^三候^三者^三を^三院^三小^三付^三度^三大^三火^三災^三者^三
之^三也^三 以^三來^三亦^三是^三年^三也 終^三然^三如^三其^三後^三
有^三之^三候^三者^三殆^三壳^三骨^三之^三也^三 而^三其^三也^三之^三後^三
亦^三作^三之^三也^三 而^三其^三也^三之^三後^三
書^三し^三ハ^三此^三之^三也^三 而^三其^三也^三之^三後^三
亦^三作^三之^三也^三 而^三其^三也^三之^三後^三

能く其の旨を武家茂右日経に授けし事
少くは白浪の曲拂振を好むる事ありし
事とて一平の且又未だ少くは及小むて小組合
ゆふに其後之流に流し白浪遠く其の流定ま
る事及古事なり
右の事此の及歌院に由り并歌院に其
由りて其の流一平の福の且又此の曲拂内
好むる事ありて其の流自ずり流可なり

其の事西九月廿七日戊子有る事也

六月

安永二年己未六月七日

上宮後之殿法渡

法同前也

前々茂相違ひ在りて茂流法曲拂也
其亦老茂亦込に流到る事あり

世弘小立の後 出く一乃 空羽の
古之通一 名相福の 玉印丸 此月付 辰一有
色遠の

六月

安永二癸巳年 付書各

水師 後書 敬以 渡

此月付

而之 居屋 反中 屋反 下屋 反托 屋反 坪
穀 并 取 附 右 認 向 而 之 屋 反 改 之 苗 青
中 之 一 名 居 以 且 亦 之 名 居 長 年 之 至 公 年
家 智 留 之 外 右 改 出 之 名 居 之 年 剛 屋 反
改 上 一 名 居 在
右 之 名 居 之 名 居 福 之 名 居 丸 此 月 付 辰 一 有
色 遠 之

八月

安永三年三月廿九日

加納途江崎渡

去々年厚夏款院之由々若法未後
出来長屋お是不速茂有之此世勝之内
今法之忘御金万友事之万長屋居子速
在法一之市何市中取之候之若法不致
久々外屋友之波任若之候之如何之
可や之若法之之之之之之之之之之之

此世勝外茂右之准一之

正月

右之通一之若御之之知九山月何之有

之之之

安永三年七月廿日

は月何之

花火之候若事之度之若福之候之

此曲傳世所必過之場所也
其小之至也 風乎之有之也
以朱之意度三月之月也

右之在之也 其福也 如九月之月也 有
白之也

安永八已亥年六月

任知事 故出波

此月能也

花大之候 先其也 其福也 通此曲傳也
家迄之場所也 其花大也 其小也
候三月之月也 其福也 其後候也
火之候也 其子也 其大也 其後候也
有之也 其候也 其大也 其後候也
之也 其候也 其大也 其後候也
風之候也 其候也 其大也 其後候也

六月

安永八年六月廿日

六月廿日

花火之儀是年而度之其儀は清夜又々
此由歸由不承運之向不して花火より
其小之儀風等々有之如何儀義は以
朱急度一月之用を去り午奉相福は

此右之儀一和の得は春は後倍友大見
清は名も連火清夜は紙云々有之は
志如の儀義度有之はて大清夜は
此月付は右之儀は其名一和の得は
右之儀一和の得は西丸此月付は度一有
五十年

六月

安永八己亥年九月廿四

作加多子殿後

屋敷之内と何人か他者無後前より此制
禁めし以沙袋等屋敷中より及ぬと未春可相
改め方一戸毎書名右に色々の元禄七戌年一
羽の廻標に於て此迄在る沙袋と記す者
勿論遠く至る迄に及ぬ
大正三統一と相稱する石丸は月の上成る

白蓮公

九月

安永八己亥年十二月廿八

遠江守殿後

此月有

屋敷之内と何人か他者無中より及ぬと先
年より此迄に及ぬと未春可相改め

花大に候老を去るに及ぶに相傳は通由候
近所家迄之に傳ふ事と云花大に云其
お云候に及ぶに用と相傳は通由候
候と云花大に傳ふ事と云其
茂有之に及ぶに用と相傳は通由候
お云候に及ぶに用と相傳は通由候
花大に云其
お云候に及ぶに用と相傳は通由候

之に及ぶに用と相傳は通由候
花大に云其
お云候に及ぶに用と相傳は通由候
七月
お云候に及ぶに用と相傳は通由候

天明乙卯年九月廿日

酒本古賀見書殿に渡

清江見以爲下陪臣在社何人亦百姓
也也内之曰濠波抱屋友之族一百姓
名代之曰後石持名名教事亦有之雖其
右解之曰名水場内也其編不名也其
計度不殘而更改之曰味之曰持之
名前之抱屋友權面之載出料和領
年私領之也之次有東國家保不問
教海教不法以役人之名其出之役

屋友改中渡之可所持之而之屋友改中
一平之其也其之也而姓名代之曰内之
而持之者有之曰所持之材役人亦可
名神及之

但是是持之其知也之抱屋友也其也
之也了役人之也亦不及之其也濠波也
其也其也其也其也

右 通之其也其也

天明六年正月廿九日

酒井石見守殿

此度世上終く交り有る所は、出ま
り、一組合中、合意原く、毎口、換
り、了、方、之、入、念、一、千、山、志、往、来、之、若
茂、之、所、自、人、之、用、事、小、度、之、自、心
之、心、智、極、之、者、之、相、替、之、事、之、人、之、
取、之、之、心、之、若、怪、友、之、度、之、
之、

組合、之、過、番、所、之、以、金、月、書、之、所、
之、所、之、中、之、志、之、所、之、之、法、之、之、日、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、

一、所、方、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、

但之人の言及之人の用中。此の如く
後名格列家来自。用事。此の如く
後名白後格。此の如く。此の如く
格列。此の如く。此の如く。此の如く
御。此の如く。此の如く。此の如く
中。此の如く。此の如く。此の如く
一。此の如く。此の如く。此の如く
君。此の如く。此の如く。此の如く

茂相。此の如く。此の如く。此の如く
喜。此の如く。此の如く。此の如く
後人。此の如く。此の如く。此の如く
一。此の如く。此の如く。此の如く
後。此の如く。此の如く。此の如く
武。此の如く。此の如く。此の如く
右。此の如く。此の如く。此の如く
右。此の如く。此の如く。此の如く

東之千中史公

右之右之右之右之

天明七丁未年三月各

右田後中右殿後渡

所予地而予内將予地并河原又之川

内埋之地而是是右後此或不知信

比亦右於後家信比有出大右有之右大信

亦之由消而後之能右或自然之大火

右成法人及新法比一科信予地之信

右除之右右右年代地信比右右右

地而多右有之經合上比之予之信而之河

屋通也以此之信而大除之右右右

除也之右之信而信右右信右右

地所右信河而右信比右之信右

此也

右之通可相福也

天保八年戊申年十一月廿

壬午大膳亮成徳

於白屋及内之次也賊不捕也

不中其意也月書之可也

志河在也其可也

之在也

右之通可相福也

三月

寛政元年己酉年三月十日

右田後中寺成徳

江戸内之組合道遠

之取極極修復也

以後歸也向成相有之

天明九年正月廿六日

右田佐中守殿様

大之左衛門様末之者之可入之
去年二月廿六日 信守公以来之由也

解之右相中守之清元寺家屋發所入

意中一有之由也向之由也

正月

